－所蔵作品紹介－

中　井　啓二郎　NAKAI Keijiro

丹　野　則　雄　TANNO Norio

木鞄（KIBAN）

きばん（KIBAN）

作品データはこちら

５年前の1981（昭56）年、北海道立近代美術館において「はこで考えるーあそびの木箱」展というユニークな展覧会が開かれました。これは古くからものを入れるうつわとして常に身のまわりにある"箱"をテーマとし、また素材を木として自由な発想で制作してもらった作品を一堂に集めたコンペ形式の展覧会でした。

中井啓二郎と丹野則雄の合作による「木箱（KIBAN）」はこの展覧会の出品作であり、奨励賞を受賞した作品です。胡桃（クルミ）、コルク、ローズウッドなどの素材を駆使して作られていますが、外部や内部がすべて木でできているのはもちろん、三本の棒状のカギまでが木でできているというもので、非常に手の込んだ精緻な職人技をみせています。と同時にタイトルにもみられるように、ユーモアや遊びの要素も盛り込まれており、楽しい工芸作品となっています。

「あそびの木箱を考えようとしてつい"木まじめ"なモノ創りになってしまいました。しかし、これが使う楽しさにつながれば、ある意味で遊びに通じると思います。」とは作家がこの作品に寄せたコメントです。

中井啓二郎は1949（昭24）年新潟県生まれ。千葉大学工業短期大学部木材工芸科を卒業後、1973（昭48）年に来道し旭川市工芸指導所に勤務しています。一方丹野則雄は1951（昭26）年北海道生まれ。北海道デザイン研究所インテリア科を卒業後、1978（昭53）年にノアウッドデザイン研究所を設立して現在に至っています。いずれも道内工芸界を代表する若手作家といえるでしょう。

旭川美術館だより「氷華」No.11（1986.１発行）「収蔵作品から」より